



大野一心

NO.40

令和5年12月12日（火） 文責：校長 諸熊 修

校長雑感

私が30代の頃です。市内のある学校に勤務していた時に、当時の文部省が主催していた「日米交流若手教員海外派遣」という事業でアメリカへ3か月間研修に行く機会をいただきました。全く英語を話せず、不安だらけだったのですが、全国から集まった仲間たちと一緒に貴重な経験をさせていただきました。

最初の1か月間は大学に通って、アメリカの教育を学びました。だいぶお年を召した女性の先生に「こんなことも知らないのか」と、こっぴどく叱られながら学びました。お名前は忘れもしません。「マーガレット先生」と言われました。でも、先生の厳しいご指導のおかげで、話すことは上達しませんでした。聞く方（リスニング）は少しは上達しました。次の1か月間は、ホームステイをしながらその土地の中学校に通いました。通っていた中学校では日本語を学んでいるクラスがあったので、俳句の授業をするなどして、アメリカの子どもたちに日本の文化を教えました。最後の1か月間は、アメリカ各地の教育関係施設を訪問して帰国しました。



当時は学級担任をしていたので、現地で書いた学級通信をインターネットで送信して、学級の子どもたちにアメリカの学校の様子を知らせていました。その当時の学級通信を、久しぶりに見返していたら、こんなことを書いていました。

ある日の授業中、突然ブザーが鳴りました。何事かと思っていると、子どもたちが机の下に隠れました。避難訓練だったのですが、何からの避難訓練だったと思いますか？実は、銃から自分の身を守る避難訓練だったのです。後から聞いてびっくりしました。「やっぱり、ここはアメリカだなあ」と思いました。

また、こんなことも書いています。

2校ほど、学校訪問をしたのですが、一番驚いたのは、施設が充実していたことです。何と言ってもパソコンの数にはびっくりしました。教室には必ず1台は置いてあります。しかもインターネットはずっとつなげっぱなしです。日本でそのようなことをやっていたらお金がいくらあっても足りなくなりますが、アメリカは基本的に無料です。しかも、市内だったら電話料金も無料です。アメリカでパソコンやインターネットが発達していく背景がわかるようでした。

平成12年の頃の話です。この翌年に大阪附属池田小学校の事件が起きました。この事件以前は、避難訓練と言えば主に「火災による避難訓練」だったように記憶しています。今では「不審者対策の避難訓練」は当たり前のように行われていますし、津波や地震を想定した避難訓練も実施します。ICTについてはGIGAスクール構想が始まり、今や生徒一人一台の時代です。多くの生徒がスマホを片手に様々なコミュニケーションを取っています。

「子どもは未来からの留学生」ということはよく言われますが、今日の前にいる子どもたちの10年後、20年後を見据えて教育活動を行っているのだろうか、当時の学級通信を読み返していて、考えさせられました。